

2.研修後の看護実践 その③看護過程の展開

【新居浜病院】

新居浜病院
看護過程の展開
フォローアップ研修

5 東病棟



入院時の情報収集が不足していることが課題です。なるべく早期に情報収集し看護計画に繋げるように取り組んでいます。2月の病棟会で自分が実施した看護過程の展開を発表し、学びを共有する予定です。

4 西病棟

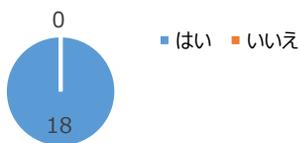


研修後は意図的に情報収集し患者の思いに寄り添った個別的な看護計画を立案するようになっています。チームで看護できるように、カンファレンスで情報共有し、患者・家族の代弁者となり思いを伝えていきます。

令和6年12月19日（木）
院内3年目研修として、看護過程の展開基礎フォローアップ研修を開催しました。合同研修の事後課題を活用し、看護計画を立案しグループワークでアセスメントを深めました。

【中央病院】

Q. 研修後に立案した行動計画を実践することは自身の看護の質の向上につながりますか



【現任教育委員会より】

研修受講者全員が情報収集から看護計画立案まで患者の個性を意識して看護過程が展開できるようになったと自己評価している。理論の活用については理解度や習得状況に差があるが、理論を活用することで患者に必要な看護ケアに繋げていけることは全員理解できていた。

研修シートの目標や行動計画からは目指す実践が読み取れないものもあったが、ラウンドによる聞き取りでは日々の看護の中で研修の学びを意識して看護計画の立案、看護実践、看護計画の評価が行えていることがわかった。また、患者にとってより良いケアや支援につながるようカンファレンスの場を活用して発言するといった行動変容もみられた。

Q. 研修後の実践状況および実践に伴い工夫した点はあるか。

- ・工夫した点は意図的な情報収集であり、日々担当に限られるため先輩スタッフからの情報や医師、多職種からの情報を事前に集めるようになった。自分の知らない情報が多くあることに気づきその情報をもとに退院後の生活に向けての指導等ができていた。小児科特有の患児と母親との関わりと、急な発症に伴う衝撃の段階にある母親への関わりの中で理論を活用し、個別性のある看護を考えることができた。就学支援に関することはカンファレンスの開催と計画追加・修正ができた。アセスメントに理論の内容は含まれていないが、実践はできた。意図的に情報を取るようになった。
- ・研修に参加することで視点が変わった。危機理論を用いて患者が今どの段階にいるのか考え、必要な情報をコミュニケーションを取りながら、ケア内容を考え実践した。外傷後の衝撃の段階にある若い患者とその家族との関わりの中かで、得た情報を実際に記録に残し、カンファレンスの開催・場の調整を行った。
- ・1週間ごとの評価時だけでなく、不安に思った際や退院支援で悩んだ人など相談したりカンファレンスをしてもらうようにした。話し合った内容で必要なケアや看護指示を修正することができた。退院先を検討していく際に本人・家族の意向や不安なことなどを確認し解決に向けて支援することができた。
- ・アセスメントでは、病態中心の思考から、その人の生活など背景を重視するように視野が広がった。

Q. 今後は、研修の学びを具体的にどのように看護実践に反映させていくか。

- ・患者全体をみたアセスメントや、自身の弱みである精神的社会的支援については特に情報収集や患者の思いを積極的に確認し個別性のある看護実践を行ってきたい。
- ・研修に参加したことで、意図的に収集した情報が共有できておらず活用できていない状況が気になったので、看護を行う上で活用できる情報はチームで共有し、活用できるようにしたい。今までは単発的に情報をとり、その情報を看護につなげることができていなかったが、得た情報をアセスメントし予測して看護につなげることができるようになりたい。
- ・看護計画の内容をテンプレートのみで使用するのではなく、患者を多角的にアセスメントして個別性を見出しながら計画に反映できるようにしていく。その際に、看護師からの視点だけでなく患者本人や家族の思いを大切にしながら、医師や多職種と連携し一緒に治療の方向性を考えていくことができるようにしていく。
- ・意思決定支援のためのカンファレンスを多職種と行い患者・家族の希望する療養先へ退院できるように支援していく。

研修受講後の実践状況

看護理論を用いることで、情報を整理でき、より深いアセスメントができるようになりました。また、患者の課題が明確となり、必要な介入について理解しやすくなりました。意図的な情報収集を行い、多職種でカンファレンスを行うことで、一貫・統一した介入ができるように、日々意識して研修の学びを実践しています。

意図的な情報収集を行い、多職種でカンファレンスを行うことで、一貫・統一した介入ができるように、日々意識して研修の学びを実践しています。



多職種カンファレンスなどで積極的に発言し、情報共有することで、個別性のある退院支援に繋がっています。また、意図的な情報収集を行い、アセスメントシートへの追記や、具体的な看護計画内容の記載など、個別性のある看護計画・介入に繋がるようになりました。（部署より）



これまでは、目に見える情報から患者を捉えていました。しかし、研修後は、患者を多角的に捉えるために、身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな側面から情報を取ることを意識するようになりました。そのために、家族へも密にコミュニケーションを図り、患者・家族の思いを尊重した個別性のある看護計画や看護実践に繋がるように取り組んでいます。

- 南宇和は、高齢で認知症患者が多く入院します。
- 入院から患者さんが今後どういう生活がしたいのか、退院支援に繋がる情報収集をするようになりました。特に、認知症の患者であっても、家族から思いを聞くのではなく、タイミングを見て直接患者さんと話す機会を持ち、患者さんの気持ちに寄り添えるように意識しています。



3.新人成長記録

中央病院 新人看護師



赤ちゃんは言葉を発することができないため、表情や仕草、呼吸状態などから症状を読み取り、触り方を工夫することで児の安心感につなげる事ができました。また、限られた面会時間の中でできる限りできるケアを家族と行い、退院に向け多職種と連携し、家族の思いに寄り添い精神的サポートを行いました。退院後も安心して生活できるように一人一人と向き合い、家族の個性性に合わせた看護、また自己学習を続け、より専門性を高めた看護を提供していきたいです。

入職当初は、慣れない環境で不安なことも多くありましたが、先輩方の支援のもと、少しずつできることが増えてきました。この一年で、周手術期の看護や放射線療法、がん化学療法を受ける患者さんとの関わりなど、様々なことを学びました。退院後もよりよい治療を受けていただくために、患者さんの生活状況や社会的背景に着目しながら退院支援を行ったり、治療によって起こるボディイメージの変容や副作用に対して、患者さんの思いを大切にしながら関わっています。



学びが多く充実した環境で楽しく仕事できています。自分では未熟な部分に目が行きがちですが、先輩方に成長している所点を言っただけの事で成長を感じることができています。理想の看護師に近づけられるように頑張ります。

日々先輩看護師さんにご指導していただき充実しています。特に先輩男性看護師さんには気にかけてもらっているのが楽しく業務出来ています。今後も日々自己研鑽していきます。

患者さんから感謝の言葉を伝えられた時にやりがいを感じています。看護実践を通して自分の未熟さを痛感し落ち込むこともあります。先輩方にご指導していただくことで知識や技術、アセスメント力などを少しずつでも着実に身につけ成長することができていると思います。



南宇和病院 新人看護師



ローテーション研修で外来に行き、採血やルート確保を経験しました。最初は失敗ばかりでしたが、コツを掴んだからは、成功する回数が増え自信に繋がりました。また、入院する患者さんの流れを把握でき、現在は病棟で先輩看護師と一緒にペアで日勤業務を行っています。



1. 夜勤で10人以上の患者を受け持つことができるようになった
2. 円滑なコミュニケーション
3. 採血・ルート確保など技術が身についた



1. コミュニケーション
2. 看護技術（採血・ルート確保等）の習得と上達
3. PTとりハビリ状況の共有や相談ができるようになった



1. 看護技術の習得
2. 患者さんに合わせたコミュニケーション技術の獲得
3. 夜勤の独り立ち



令和7年2月20日
新人IV期研修開催



心に残った場面を振り返り、発表しました。何がよかったか、どうすればよかったのか考えることができ、2年目に向けた課題も発見できました。看護部長より、「安全・安楽な看護技術の提供は重要です。その場、その場で患者が必要とする看護が何か考えられる看護師になってください」と2年目に向けての期待の言葉を頂きました。

手術室
1年目

今治病院
新人看護師

病棟
1年目

泌尿器科・整形外科手術に
チャレンジ中！！

もう1年が経ちますね
ういういしく患者さんに一生懸命に関わっている姿が
りりしく頼もしくなっています
あたたかい笑顔でコミュニケーションを大切に
りそうの看護師像を目指して
さらなる成長を期待しています
夢を見ることができれば、それは実現できる！

入職当初は、初めての事ばかりで自信の持てないことが多くありましたが、今は患者さんの不安に寄り添い安心して手術に臨めるようサポートすることができるようになりました。また、患者さんや看護師間だけでなく、多職種とのコミュニケーションを取りながらチーム一丸となり、緊急手術も担当できるようになりました。

看護師として働き始め、1年が経ちます。初めての看護技術、初めての疾患など1年間はわからないことが多く、不安もありました。しかし、未経験の看護技術は、先輩方が傍で助言をくださり、部署内で積極的に経験させてくれることで、少しずつ自立した技術が増えました。まだまだ、未熟な面も多いので、常に謙虚さを忘れず、「患者さんが退院後安心して日常生活を遅れるように支援する」という自身の看護師像に近づけるよう日々昇進していきたいです。

【編集後記】

早いもので、もう年度末の3月です。年を重ねるごとに一年があっという間で、だからこそ、一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

今年度より合同研修を担当させていただきましたが、無事すべての研修を終了することができました。一年間を通し、研修受講者が学びを実践で活用されている姿をみて、大変嬉しく思っております。皆様のご支援・ご指導・ご協力に感謝いたします。来年度も引き続きご支援・ご協力の程宜しくお願いいたします。（毛利友香）

